

令和5年度も、校長室から日頃の「雑感」をお届けいたします。昨年度は沢山の生徒の皆さんに校長室に来ていただきお話を伺うことができました。今年度も、感想や談話等の内容を掲載させていただく予定ですので、ご覧いただけましたら幸いです。

**One for all, All for one. No.123**

### R6. 1.15 「全校集会」

冬休み明けの全校集会は、コロナとインフルエンザの感染拡大防止を考慮し、放送を使って行いました。

2024年という新しい年を迎えたばかりですが、元日に発生した能登半島地震では、多数の方々がその犠牲となり、いまだ復旧の見通しも立たない中、被災された方々の苦難な生活が続いています。連日の報道で、被災地の全貌や被災者の思い、生活の様子を見聞きするたびに心が痛みます。衷心より哀悼の意とお見舞いを申し上げます。

ただ、そんな状況下でありながらも、地元の高校生が避難所に駆けつけ、小さな子どもたちの心のケアをしている姿が放映されました、自らの生活もままならない中、我が身よりも子どもたちを元気づけるために尽力する高校生の姿に強く心を打たれ、その尊い行動に量り知れない感動を覚えました。



生徒にも、難題に真っ向から対峙できる強い心と、常に他者を思いやる優しさ、そして何よりも「人としてのあり方」を日頃から考え行動してほしいことを伝えました。

**One for all, All for one. No.124**

### R6. 1.15 「報恩講」

全校集会に続いて「報恩講」を執り行いました。この行事は、親鸞聖人のご遺徳を偲び、そのご苦勞を通じて、阿弥陀如来のご本願による「お救い」を改めて心に深く味わわせていただく法要です。

その起源は、親鸞聖人の三十三回忌の法要にあたり、親鸞聖人の會孫にあたる覚如上人（カクニョショウニン）が、聖人のご遺徳を仰ぎ尊ぶため「報恩講私記」をご製作され、以来親鸞聖人のご命日の法要として執り行われたことに由来します。



**One for all, All for one. No.125**

### R6. 1.22 「バドミントン全道3位」

バドミントン部が帯広での全道大会を終え帰校しました。結果は団体戦が、男女ともに3位、ダブルスでは、男子の部 2年 奥村・澤田ペア、女子の部 小林・美濃輪ペアがともにベスト8という好成績でした。

副キャプテンの2年 柳川 諒羽君は「メンバー全員がベストコンディションで臨むことができました。今大会は声出しや応援の波長も相まって、いつも以上の力を出せたように

思います。どんな強豪と当たっても、チャンスが回ってくるまで決してあきらめない粘り強いチーム作りを継続していきたいです」と、次回に向けての抱負を語ってくれました。

女子副キャプテンの2年 小林 璃和さんは「一本一本に集中し、自分たちの流れを相手に



に渡さないよう常に声を掛け合うことを意識しました」と、冷静沈着な試合運びであったことが伝わってきます。

ペアを組んだ2年 美濃輪 凜さんも「ダブルスは互いの息を合わせることが大切。ラリーの合間ごとに言葉を交わし意思疎通を図りました」と、確固たるペアの絆を感じず。二人は「今後は苦手な部分を克服し、次回こそバスト4を狙います」とさらに高見を目指します。

**One for all, All for one. No.126**

#### R6. 1.24 「華道部の皆さんに感謝！」

放課後、華道部の皆さんが美しい花を校長室に飾ってくれました。趣向を凝らした素晴らしい生け花にいつも心が癒されます。

ガーベラの深紅が真っ白な外の雪景色に一段と映えます。花言葉は「希望」「前向き」とのことで、元気を一杯いただきました。

また、凜として広がるミズキの花言葉は「成熟した精神」、こちらはまもなく高校を巣立っていく3年生を象徴しているかのようです。

「生け花」は室内に居ながら季節を感じることも魅力の一つですが、見る人の心に何かを語りかけるような不思議な力も持っているようにも思います。

華道部の皆さん、有り難うございました。

